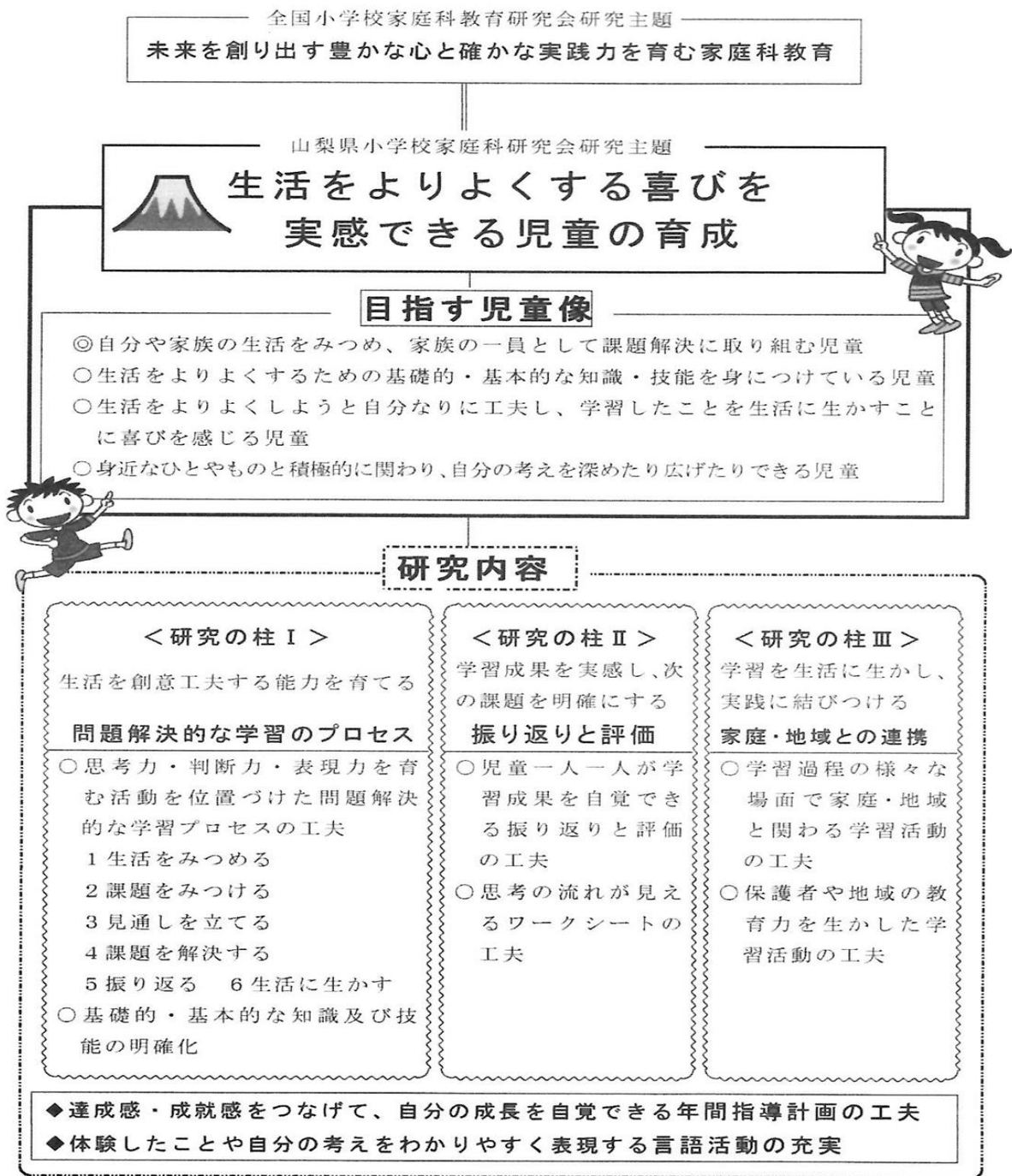


(2) 第53回 全国小学校家庭科教育研究会全国大会（山梨大会）参加報告

ア 大会主題及び山梨県の研究全体構想



イ 山梨県の取組

山梨県は、〈研究の柱Ⅰ〉問題解決的な学習のプロセス、〈研究の柱Ⅱ〉振り返りと評価、〈研究の柱Ⅲ〉家庭・地域との連携という3つの柱で研究に取り組んでいた。

【問題解決的な学習のプロセス】

問題解決的な学習のプロセスを「富士山プラン」(図1)とし、学びを積み重ね、家庭生活に関心をもって科学的な視点で課題を見出し、これからの生活をさらによりよくしていこうとする意欲をもたせるため、学びの繰り返しにより、思考力・判断力・表現力を育む取組がされていた。また、基礎的・基本的な知識及び技能の明確化を図るために、富士山プランを基に題材構想図をつくり、題材全体の見通しを立てていた。6年生の「めざせ！ソーイングで楽しい生活」の学習では、製作に当たって不織布での試し作りの活動を取り入れていた。友達のアドバイスを生かしながら、作る物のイメージを具体化させ、手順や目的に応じた縫い方などの見通しを立てさせていた。また、試し作りを基に製作するようになっており、課題を解決できるようにしていた。

【振り返りと評価】

児童一人一人が学習成果を自覚できる振り返りと評価の工夫をしていた。2年間の成長を振り返る学習カードを作成し、学期の終わりごとに自分の成長を振り返る活動を行っており、自己との対話を深めつつ、家族や近隣の人々など他者や社会、自然や環境と共に生きるための、家庭生活の基盤となる能力や態度を育むことを目指していた。

また、思考の流れが見えるワークシートの工夫をしており、課題解決の過程において、子ども自身が考えたことや気付いたことを記録し、自己評価し、見通しと振り返りができるようにしていた。

【家庭・地域との連携】

学習過程の様々な場面で家庭・地域と関わる学習活動の工夫を行っていた。家庭で実践する場を意図的に設け、学校で習得した知識や技能を自分の家庭生活に生かす題材構成にしていたり、家族へのインタビューや家庭の仕事の観察・調査を取り入れた題材構成にしたりしており、題材構想図の中にマークをつけ、分かりやすくしていた。また、長期休業を利用し家庭で実践する活動を取り入れた指導計画の作成も行っており、「家庭科チャレンジカード」への取組も見られた。さらに、家庭科通信を発行しており、相互に交流できる通信を目指していた。

ウ 研究発表

全国6地区から次のような実践発表があった。

富山県 毎日の食事に関心をもち、「食」を楽しむ指導の工夫がされており、子どもたちの意欲を高める一人調理に力を入れていた。

岡山県 思考を促す指導方法の工夫がされており、学習構想図をつくり、学習の見通しをもちやすくしたり、自分の経験した生活事象の課題に気付く導入を行ったりしていた。

沖縄県 風通しを調べるための道具など、実感を伴った理解につながる教材・教具の工夫が見られた。

東京都 家庭生活と家族の内容の指導の工夫に力を入れており、家庭実践カードの仕事の質を高めるための活動の振り返りと自己評価の工夫を行っていた。

山形県 「龍樹っ子弁当プロジェクト」を行っており、地域との協力を密にした取組であった。

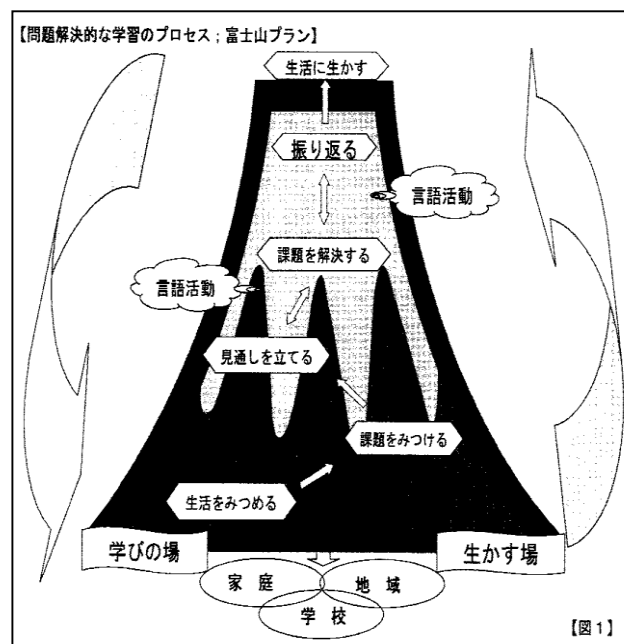
京都府 ヒト・モノ・コトとつながることを意識した題材計画を作成しており、児童の自己肯定感を高めることにもつながる取組を行っていた。

エ 全体指導

文部科学省初等中等教育局教育課程課 筒井恭子教科調査官から、全体指導が行われた。

山梨県の取組における成果として、①問題解決的な学習のプロセスとして富士山プランを作り、見通しを立てることや振り返ることを大切にしていること ②題材全体の見通しをもせた題材構想図の作成 ③振り返りと評価のための思考の流れが見えるワークシートの工夫 ④家庭や地域との連携を図るための「家庭科チャレンジカード」の取組が挙げられた。特に、富士山プランや題材構想図については、2学年間を見通した指導計画の作成ができており、系統的なつながりを把握できたり、指導の意味をしっかりと把握することができたりする効果的な方法であると述べられた。

また、学習指導要領改訂の方向性については、①「カリキュラム・マネジメント」の実現、②「アクティブ・ラーニング」の視点が重要になると述べられた。これらは、家庭科における資質・能力を育むための手段であり、場面に応じて知識や技能を使いこなすおもしろさに気付かせたり、自分にもできたという自信をもたせたりするような授業づくりをしていかなければならない。また、次年度に向けての家庭科の実践課題として、特に、他教科との関連や小中学校の連携について挙げられ、変化の激しい世の中を生き抜く力をもった子どもを育てることが大切だのご指導いただいた。



＜図1 問題解決的な学習のプロセス「富士山プラン」＞